

報 告

患者医療図書サービス「からだのとしょかん」アンケート
患者・家族の医学情報入手支援の現状と問題点Patient Medical Book Service "Karada no Toshokan" Questionnaire
-Current Status and Problems to Obtain Medical Information for Patient and Family

サポートケア委員会 からだのとしょかんグループ
有 田 由美子* 柴 田 正 裕** 村 山 翼***
齋 藤 義 之** 本 間 英 之*

Yumiko ARITA, Masahiro SHIBATA, Tubasa MURAYAMA,
Yoshiyuki SAITOU and Hideyuki HONMA

要 旨

患者医療図書サービス「からだのとしょかん」は、サポートケア委員会の事業としてボランティアの協力を得て活動している。利用人数と貸出冊数が減少していることから、アンケートで患者・家族の「からだのとしょかん」に対する認知度や要望を探り、問題点を検証した。利用減少の原因について予想されるものとしては、患者数との関連、インターネット・スマートフォンの普及、広報不足、スペース不足、本が少ない等が考えられた。

アンケートは2016年1月20日～29日までの間に、外来と病棟の患者、家族、付添いに実施した。1,145枚配布し、1,009枚回収、回収率は88%であった。

調査の結果、利用者や貸出数の減少の大きな要因は広報不足であることが分かった。要望としては、医学関連資料やサプリメント関係資料の増加、催事の開催や案内、併設の娯楽書の増加、インターネットの検索方法の紹介、スペース拡大を望むこと等が挙がっていた。可能などところからの着手が望まれる。

I. はじめに

県立がんセンター新潟病院「からだのとしょかん」は患者・家族の医学情報入手を支援する患者図書室として、1997年にボランティアの協力を得て活動を開始した^{1,2)}。現在は、サポートケア委員会の事業となり、19年間の活動実績がある。場所は外来棟2階にあり、広さは20㎡と配架スペースが限られている。そのため医学関連書は古いもの入替えを行ない、常時1000冊強の設置となっている。その他に健康関連購読雑誌3誌、インターネット接続のパソコン1台、そして娯楽書約3,600冊が設置されている。この娯楽書は「あかね文庫」として先に開始したボランティア活動のもので、室内設置の他に各病棟デイルームにも書棚がある。これらは週1回木曜日の午後、4つ

の病棟でベッドサイドでの貸出や、書架の整理、本の移動等を行なっている。室内に娯楽書があることは、医学関連書だけよりも入りやすくする目的もある。

「からだのとしょかん」は午前10時から午後3時、外来診療のある月曜から金曜（但し木曜は午前閉室、午後あかね文庫の活動時間内）まで開室している。ボランティアは22名が当番を組み、午前午後2名ずつ常駐している。管理運営はサポートケア委員会のからだのとしょかんグループが担当し、具体的には資料・情報の選定購入に関しては図書室が担当し、医学的あるいは心理的な相談や、費用の相談等があれば地域連携・相談支援センターの看護師や臨床心理士、医療相談員へ引き継ぐ事になっている。また、ボランティアに対しては「ボランティア運営

新潟県立がんセンター新潟病院 *県立がんセンター新潟病院, **県立新発田病院, ***コロニーにいがた白岩の里
(**, ***は2015年度メンバー)

Key words : 患者図書室 (Patient library), アンケート (questionnaire)

部会」もかかわって運営している。

利用統計から利用人数と貸出冊数が減少していることが分かった。開設当時と大きく社会環境が変わり、書店や公共図書館にはわかりやすい医学関連書が増加し、情報環境の進歩によりインターネットやスマートフォン等が普及している。これらにより医学情報がより簡単に入手できるようになったことも一因と考えられたが、その他に、患者数との関連、広報不足、スペース不足、本が少ない等も考えられた。そこでアンケートによる調査を行った。

II. 目 的

利用数と患者数の関連を調査し、患者・家族の医学情報入手を適切に支援する活動を維持すること。及び患者・家族にアンケートをおこない、「からだのとしょかん」に対する認知度、及び要望を探り、問題点を検証すること。

III. 調査方法

患者数との関連を調べるために、過去10年間の入院患者実数と外来患者実数を集計して比較した。

利用者へのアンケートは2016年1月20日～29日までの間に、外来と病棟の患者、家族、付添いに実施した。外来は月曜日から金曜日までの各曜日を網羅して5日間、病棟は期間中に1回配布した。合計で1,145枚配布し、717枚回収、回収率は88%であった。アンケートの内容は、図1のとおり、1.回答する方について (①外来患者②入院患者③家族④その他) 2.該当する年代 (①～19歳 ②20～39歳 ③40～59歳 ④60～74歳 ⑤75歳～) 3.病気や治療についての情報入手方法 4.存在の認知度 5.サービス内容の認知度 6.利用したことがある人の理由 7.利用したことがない・利用しなかった場合の理由 8.望む事について、とした。該当する項目は複数回答で丸を付けてもらった。

からだのとしょかんアンケート

「からだのとしょかん」は、病気について正しい理解を得ることができるように、わかりやすい医学医療情報を集めました。ただし、特定の資料を動めているものではありません。また資料内容は、患者さんご自身の状態と一致した内容ではなく、疑問に対して一部分の回答しかない場合もあります。主治医や看護師など医療者との話合いの材料にさせていただくために設置しました。室内には小説や漫画等の娯楽書もあります。

活動の参考にさせていただくため、アンケートにご協力をお願いします。
該当する番号に○を付けてください。裏面にもあります。

1. 回答する方について

①外来患者
②入院患者
③家族
④その他 ()

2. 該当する年代 ①～19歳 ②20～39歳 ③40～59歳 ④60～74歳 ⑤75歳～

3. あなたの病気や治療についての情報入手方法は何か (複数回答可)

① 医師・看護師・薬剤師・栄養士など医療者からの説明による情報提供から
② 患者会から
③ がん関連のパンフレットから
④ インターネットから
⑤ 患者図書室・医学図書館・公共図書館などから
⑥ 新聞・テレビ・ラジオ等メディアから
⑦ 友人・知人から
⑧ その他 (具体的に)

3. からだのとしょかんの存在を知っていましたか

①知っている
②知らない

4. 「からだのとしょかん」の内容を知っていますか、知っている内容に○を付けてください (複数回答可)

① 場所 (外来棟2階)
② 開室時間 (診療のある月～金曜日、10時～15時、但し木曜は13:30～15:30)
③ 提供資料 (本・ 雑誌・ がん関係のパンフレット・希望により医学専門書)
④ インターネット (医学関連の検索ができる)
⑤ ボランティアの常駐 (午前・午後概ね2名ずつ)
⑥ 広報紙 (「からだのとしょかん通信」、「新刊案内」)
⑦ その他 ()

裏面に続きます⇒

5. 「からだのとしょかん」を利用したことがある人の理由について (複数回答可)

① 診療までの待ち
② 娯楽書を読む、借りるため
③ 病気や治療などについて本・雑誌・パンフレットなどから情報を得たいため
④ インターネットで検索したい
⑤ 「からだのとしょかん通信」や「新刊案内」が欲しい
⑥ 新刊案内を読んで、資料を見にきた
⑦ ボランティアさんに話を聞いてもらいたい、会話を楽しみたい
⑧ 困っていることを解決するための部門を紹介してもらいたい
⑨ その他 (具体的に:)

6. 「からだのとしょかん」を利用したことがない・利用しなかった場合の理由 (複数回答可)

① 存在を知らなかった
② 場所がわからなかった
③ 医療者からの説明で足りた
④ 医学資料を読む気にならなかった
⑤ 希望する資料がなかった
⑥ 自分で情報収集して解決した
⑦ その他 (具体的に:)

7. 「からだのとしょかん」に望む事について (複数回答可)

① 医学関連の新しい本や、雑誌の種類の増加
② インターネットで検索方法を知りたい
③ 講演会・講習会などのイベントの開催や案内
④ サプリメントなど補助代替療法についての情報欲しい
⑤ もっと室内スペースを広くして欲しい
⑥ 娯楽書をもっと増やして欲しい
⑦ その他 (具体的に:)

以上、ご協力ありがとうございました。

図1 アンケート

IV. 調査結果と考察

1. 利用数と患者数

図2のとおり、あかね文庫の利用人数と貸出冊数（からだのとしょかん内と院内全部署の書棚）は、2006年が3,867人、12,664冊、10年後の2015年は4,058人、9,662冊。からだのとしょかんの利用人数と貸出冊数は、2006年が3,179人、1,180冊、2015年は3,166人、599冊であった。あかね文庫の利用人数が少し増えているが、他は全て減少していた。患者数の方は、当院は化学療法や放射線治療などで繰り返し訪れる患者数が多いという特徴があるものの、実数の推移との関連は否定できないように思われた。

2. アンケート

アンケートは、回答者の内訳が、外来患者52%、入院患者25%、家族23%であった。

年代は、60～74歳（43%）、40～59歳（29%）、75歳以上（20%）でほとんどを占めていた（図3）。これは当院の年齢階級別患者数とも一致しており、満遍なく回答をいただけたことがわかる（図4）。

病気や治療についての情報入手方法は、医療者からの説明が44%、インターネットが19%、新聞ラジオ等メディアから16%、友人知人10%、パンフレット5%、図書館3%、患者会2%、その他であり、その他は自分で書籍購入が多かった（図5）。2000年に

向田らが患者及び家族に病気や健康について普段どのように調べているかを調査しているが、インターネットは9%と当時まだ少数派であり、時代の変化がわかる³⁾。

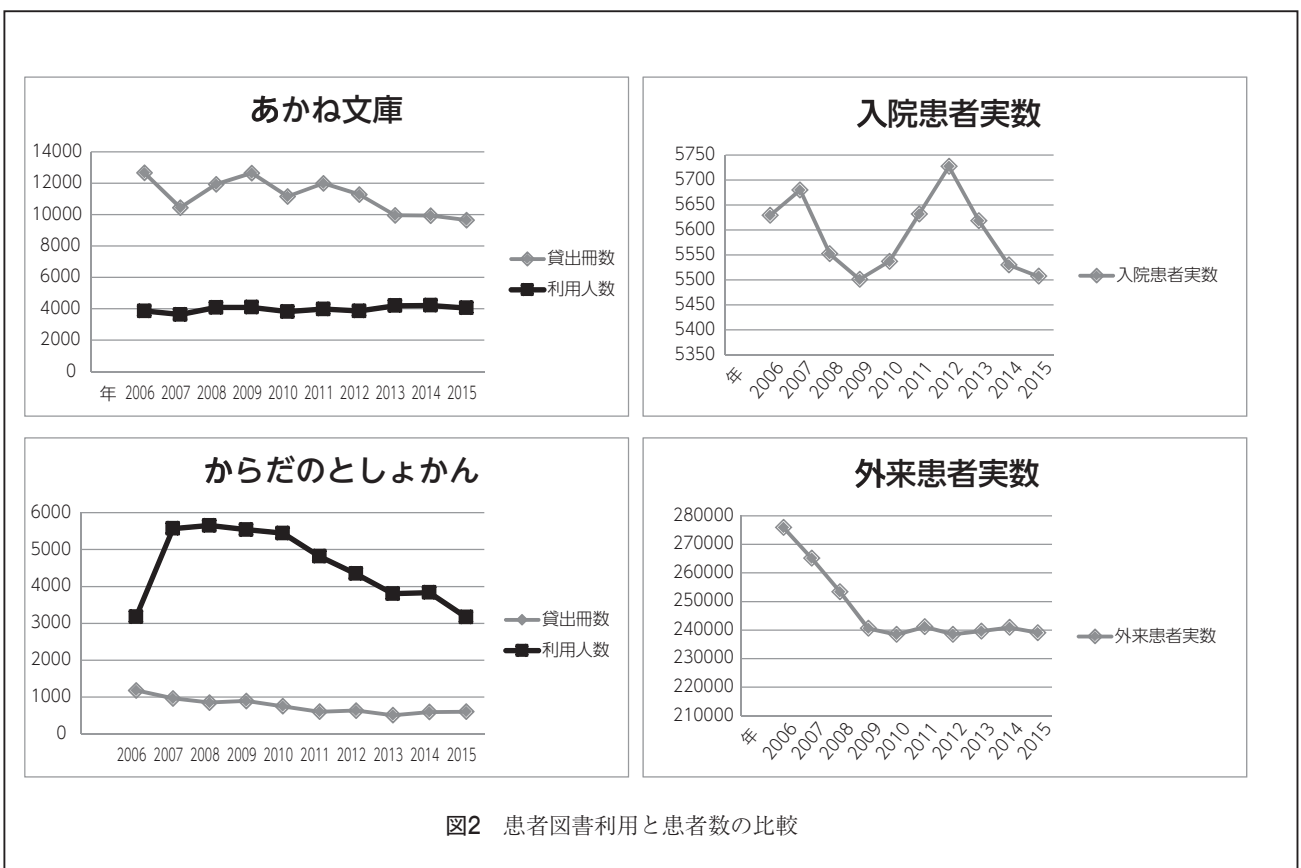
年代別に情報入手方法をグラフにしてみると、ほとどの年代も同じ傾向であるがインターネットだけ40～59歳が突出して多くなっていた（図6）。

からだのとしょかんの認知度は、知っているが46%、知らないが54%であった（図7）。また、40～59歳が知っている人の割合が一番多かった。この年代は働き盛りであり、治療に向けて、情報収集を盛んにおこなっているように推察される。

知っているサービス内容については、場所52%、医学関連書の提供20%、ボランティアの常駐10%が多かった（図8）。また、年代別に見ても同じ傾向がみられた。

利用したことのある理由は、診療までの時間待ち40%、病気の情報を得たい27%、同所に配架している娯楽書の利用が18%と多かった（図9）。

利用していない・利用しなかった場合の理由は、存在を知らなかった50%、医療者の説明で足りた19%、場所が分からなかった10%が多かった（図10）。現状の広報は「外来受診のご案内」や「入院のご案内」に「からだのとしょかん」の紹介、中央待合ホールの総合案内に「利用案内」や正面玄関入



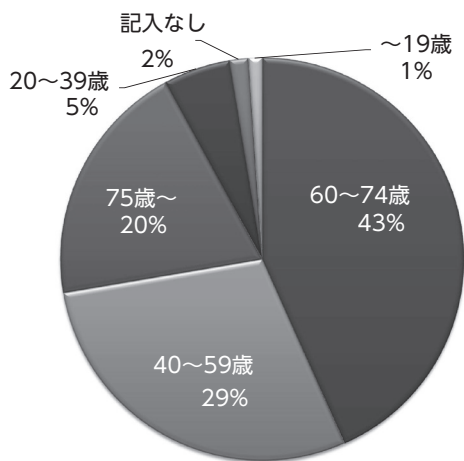


図3 回答者の年代

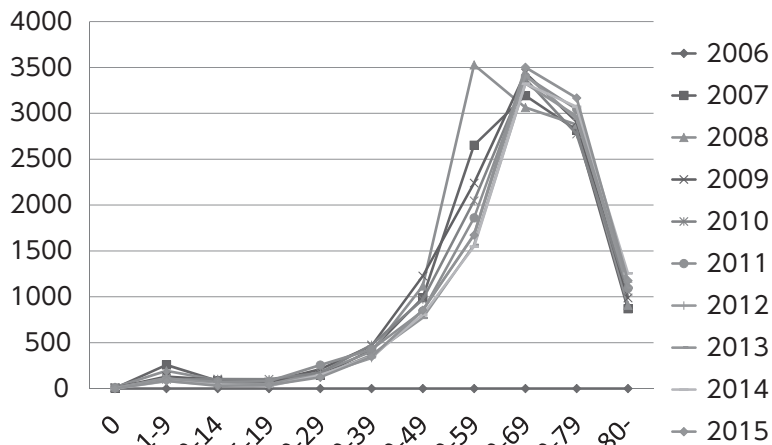


図4 当院の年齢階級別患者数

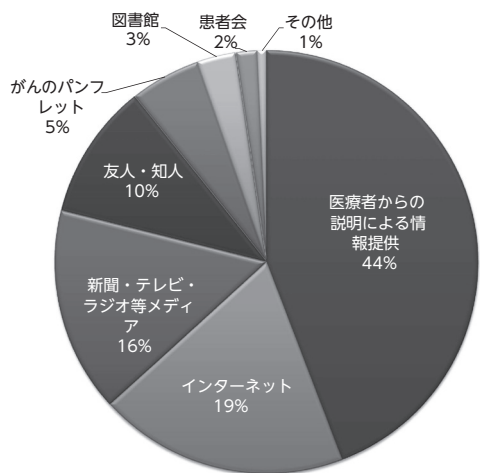


図5 情報入手方法

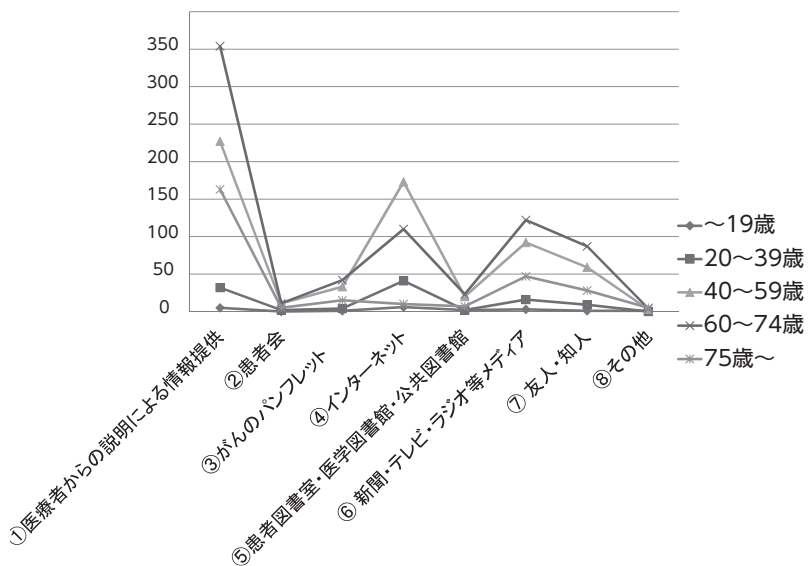


図6 年代別の情報入手方法

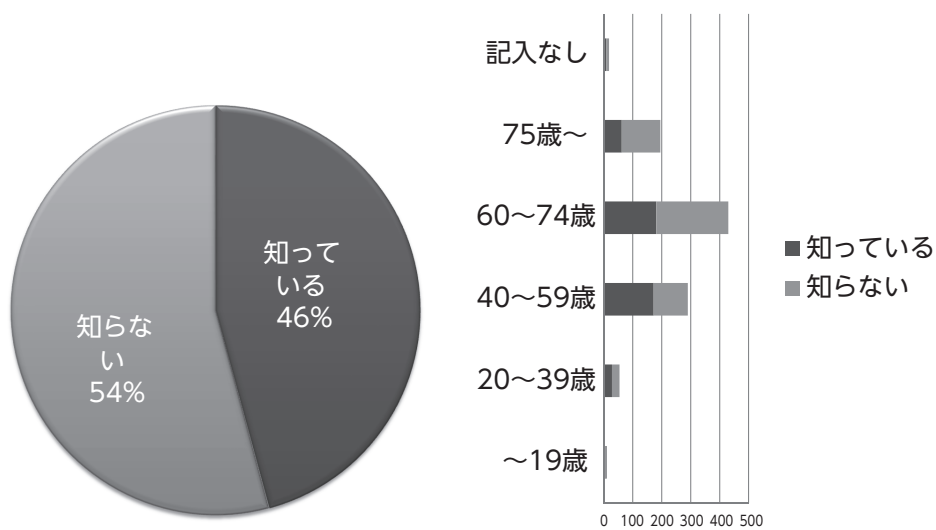


図7 からだのとしょかんを知っていますか

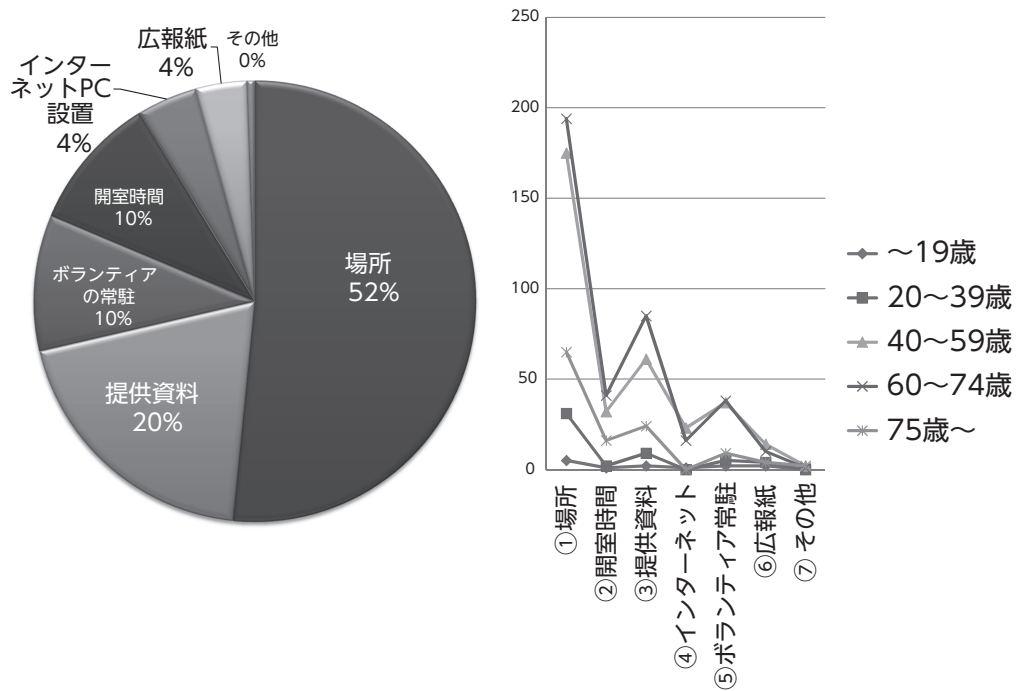


図8 知っている利用内容

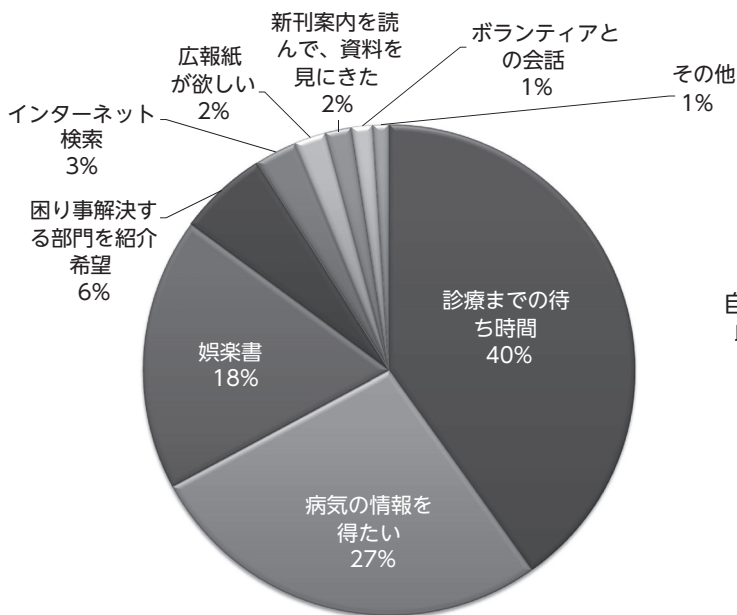


図9 利用した理由

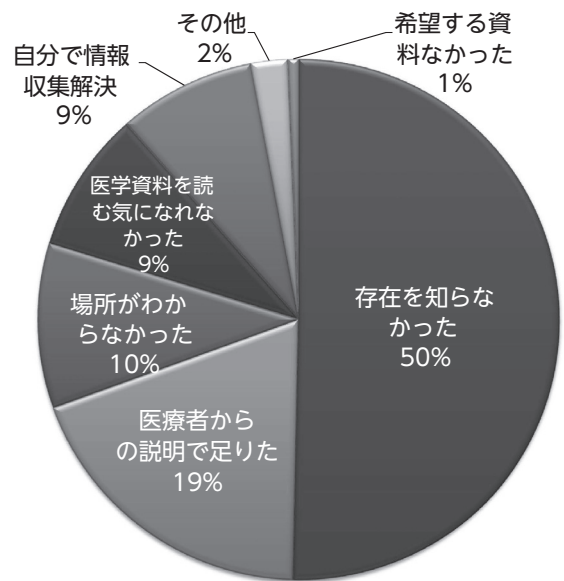


図10 利用しなかった理由

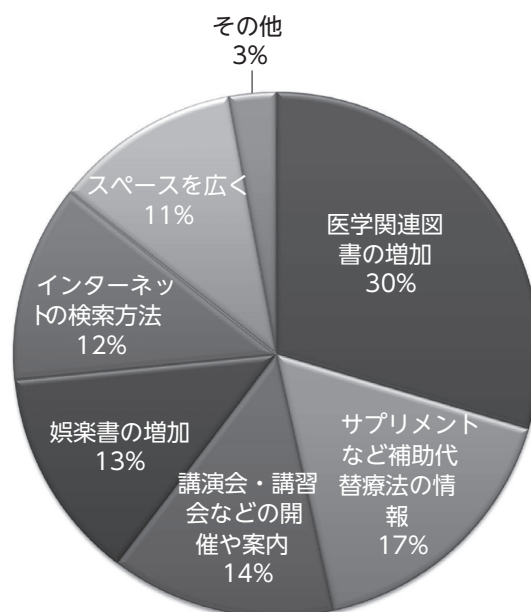


図11 からだのとしょかんへの要望

口のサインの設置、サポートケア委員会発行の「からだのとしょかん通信」という広報紙を院内に掲示、配布している。回答には、「どのようなタイミングで利用したらよいかわからない」「対象者が誰かわからない」「入りにくい」という記載もあり、これら広報の仕方を再考する必要があることがわかった。

望む事については、医学関連書の増加30%、サプリメントなど補助代替療法の情報17%、講演会等の開催や案内14%、娯楽書の増加13%、インターネット検索方法12%、スペース増加11%、その他3%であった(図11)。その他には、アンケートで存在を知りこれから利用したいという希望や、入院中に利用した方からはボランティアへの感謝、もっとアピール・宣伝すべき等も記載されていた。

V. まとめ

利用減少の現状と原因が調査で明らかになった。インターネットの普及で医学医療情報の提供が不要になった訳ではなく、広報不足が一番の原因と分かった。また、アンケートの結果から要望や課題も見えてきた。今後は利用の増加に向けて、広報の仕方を検討し、医学関連資料・サプリメント関係資料

の増加、インターネットの検索方法やリンク集の紹介、催事の開催や案内、スペース拡大等、可能などころからの着手が望まれる。からだのとしょかんの利用が増えることは、その設置目的である「病気についての理解や、医療者との信頼関係の築き、納得した治療への一助となる」ということを念頭におき、患者さんやご家族のQOL向上につながるよう継続した活動を目指していく。

アンケートに回答協力してくださった患者・家族の方々、そして患者数調査について協力くださった病歴室の関根知香さん、医事課の小山信行さんと大滝あずささんに心からお礼申し上げます。

文献

- 1) 有田由美子：病院管理フォーラム 広がる病院患者用図書館 県立がんセンター新潟病院の患者図書サービス. 病院. 56(11):1038-1039. 1997.
- 2) 藤沢直子：患者へのわかりやすい医療情報の提供—からだのとしょかん活動報告. 県立がんセンター新潟病院医誌. 37(2):89-94. 1998.
- 3) 向田厚子, 阿部信一, 江口愛子 他：患者及び家族の情報需要調査. 医学図書館. 48(4):404-409. 2001.